繪本軍法卷之序

其志を文に託し其傳を文に
[illegible]
[illegible]
[illegible]
是ものの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今勇者車巻之一

素盞嗚尊　天歳
日本武尊　寛政四年ヒ　ヌ六百七十一年
神功皇后　ヌ九百六十四年
聖徳太子　ヌ百七十三年
藤原千方　ヌ百九十九年
天武天皇　ヌ百九二年
坂上田村丸　九百八十六年
桐馬将門　八百六十二年
田原藤太秀郷　八百九十九年
六孫王経基　八百九六年
多田満仲　七百九十七年
源頼光　七百六十九年
河内守頼信　七百四十六年

素盞嗚尊

素盞嗚尊ハ天照大神の弟にして、いざなぎいざなみの第三の子なり。神武天皇の御代に、出雲国にうむいんとさるゝあたりなる神仏猛くはゝまして世界の人民天照大神怒りをひして天の岩屋ふさりうのゝ国とこやみなる故、諸神神楽をもつて天照大神岩戸をひらき二度天ぐらをしめ

其後素盞嗚尊は出雲の国へ下りひの川上にくだりふづちと云へる
大蛇の神八人の娘わりと大蛇のまゝ此蛇に八つ尾も八つあ
る。独つゝし娘なりゐるぐ姫と名づく。素盞嗚尊をふびんに思召八つのふねに酒を
あぐへいるぐ姫のうばとうつゝ結めふ。大蛇来りて酒の香に酔伏
る十拳の剣ぬきて切めふ。尾の中に一つの剣あり是を名て天照大神へ
奉りめ。此剣と天のむら雲の剣と云へり。出雲の大社おさめる

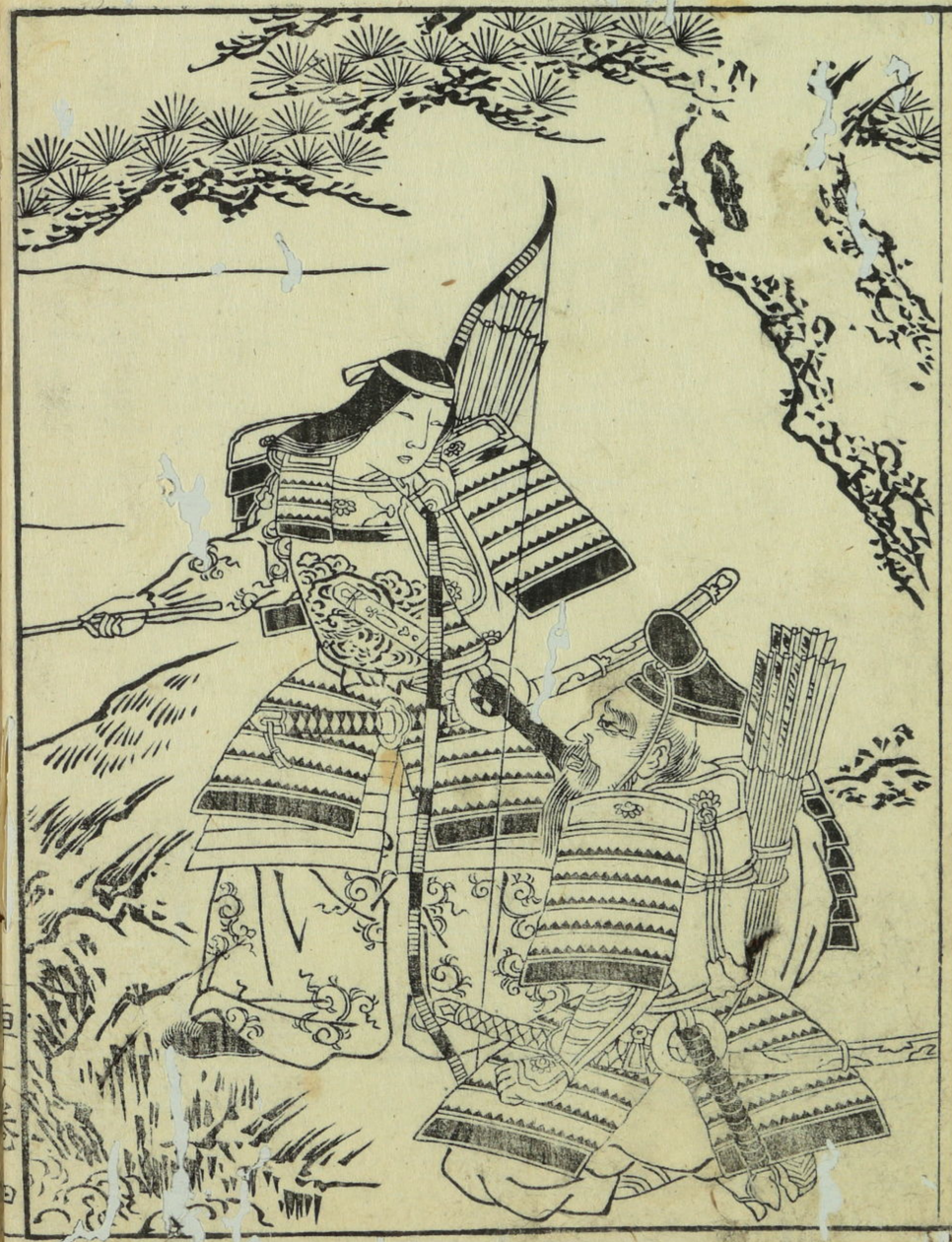
日本武尊

日本武尊は景行天皇の御子にて長き大力人
ふ勝れ。十六歳の時。
人毒七の大ねずみ。こうこたつ
けるゆふりのぞ命ふ肖
きゝ。日本武の尊むち
ひのひたける紙ゑく

おさへ給へと云へ
時たけるゆふ。今日本
におゝて我ふ勝る大力
ふ。此ふいるゆふ人を
今ゆるとおもへ。ぞまだけ
と云給へふのゝをのゝと
て終ふ死せ。ゆふ此さ
は尊ふ。と平治せん
とてゆふ時ふ。伊勢
大神宮へ行ぐ。宝剣を
やゆふ。駿河の国まで
攻ゆふ。ふ東ども草
に火紙をけ尊ふ焼殺ん
とと。尊宝剣を抜て草
をもゆふ。ふ風ゆふて。
敵の方へ火ふびき。東ども

やろびぬ。是より此剱を草薙の剱と名付めり。此剱は昔天のむしくもの剱なるを。そもさうなる者は上総の海に渡りの時。風荒して此舟沉ふ所。ぐらんとして橘姫ののたへ。是彼神のあるを取ふん。自若の此命にてうしんとして。海底に沈むせめふみとう風波おだまり此舟つがるし。是を國この悪霊をとらげうとい作ふ。此の方法は第一ど橘姫とし。うひ。吾妻とのの。されふ

よろく東国をあづまと云いは得也。まの近江の国伊吹山ふ蛇神ふ是神ふ是紙ふ。げひとふ人ふ。ふ神ふ蛇とふ。ふて。ふ紙ふさぐみこと其地と紙くあるふて。神雲霧おこりてくしを。ふ潮くふのぎて。ふ紙出ふて。酒ふ酔さふ。ふ紙ふ。ふの蘇ふ。ふ。ふ紙飲ぐさめさふ。ふ紙ふ。此泉とさめふ。ふ。ふ名付。ふは毒気ふ。ふ。ふ。伊勢の国能褒野と云。ふてふ。ふ。ふ。



神功皇后

人王十四代仲哀天皇皇后。神功皇后新羅を攻たまゑんとて。肥前の國松浦へ行て祈誓とさげ。我男の事うるゝべくんば此鮒をさゝむ給へとうわげの人べ鮒の眼をねるのゝ文出ぐ一攻ときて拾ひ上ひとと。忽あ方へこうきぬ其後ふつゝとくりてゆき一男の口いとまひ。猶軍をとり初て新羅攻のゝ大将軍八住吉大明神

武門に信祐宮のたまはげ
千珠満珠とて名珠満珠
の汐満る珠なり。
千珠の汐ひる
珠なり。満珠
を海中へ投
のゝ忍しを
海きつとて夷
絨ども溺るよ
ひ。戦に及ぶを
ものゝ勝利
をなるのゝ所ゝ
夷絨大ふ岩を
てふぐく日本の

如しとあり貢
と捧んとする
蘇頁流もた
に除来とぞ後
毎年八十被の
貢ぐ捧ぐ皇后
巴弓の若ふく
大石の表て。三
幹大王日本の
大と書のふこまぐ武制まども流ぐどい

ふ。ますせ〜ぶ拾てのく海ゆく若御位と
給へとぞ〜て也後陣後岩ものの宮伏ふて
い見あり八幡宮と崇めなる。皇后の伏見御香の宮と崇る武門大臣なる
良の神と崇む。神功皇后在位六十九年。中寿百十二歳。惣神天皇也
寿百十一歳あり。武門大臣寿三百十六歳あり。京紀天皇より六代の
間のいをとるものゝあまた大臣の始あり

ひそかにこのみそのとゝ
ア。用明天皇の皇
子なり。母は穴穂部
天皇の妹なり。受
させ給ふ。天性博学
にして和漢の書ふ
通じ給ふ。殊中佛
法を伝じ給て此
国に佛法弘免
の始ふ守屋大臣
中臣勝海等仏法
を滅しそむく。佛と
いふ他国の神なる
べしとて我国代代
神の出生にて若

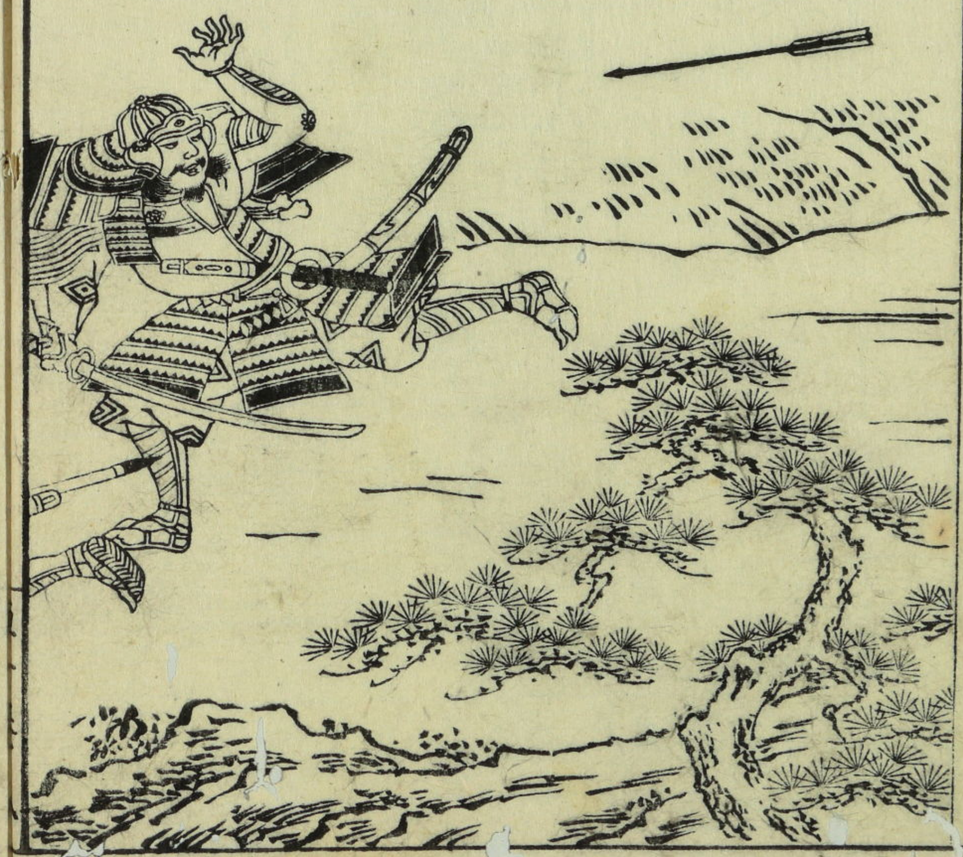
臣の争ひ多く国土
なきみだりの神
をまつるべからず。
たゞ男ひとりにて絶
ふ滅ひ及びぢ後
勝海等の代亡し結
ひ仏法弘め給へ
古墳代建立し
まひぬ。こゝ乃と一年の
末に角入仏法い花
実。信乃代拝崇神
乃たゞ男木のやくに
為ひべしとのみ。
ゆゑに今にいたり
て仏名ならく佛法の
祖と下なる

若原千方

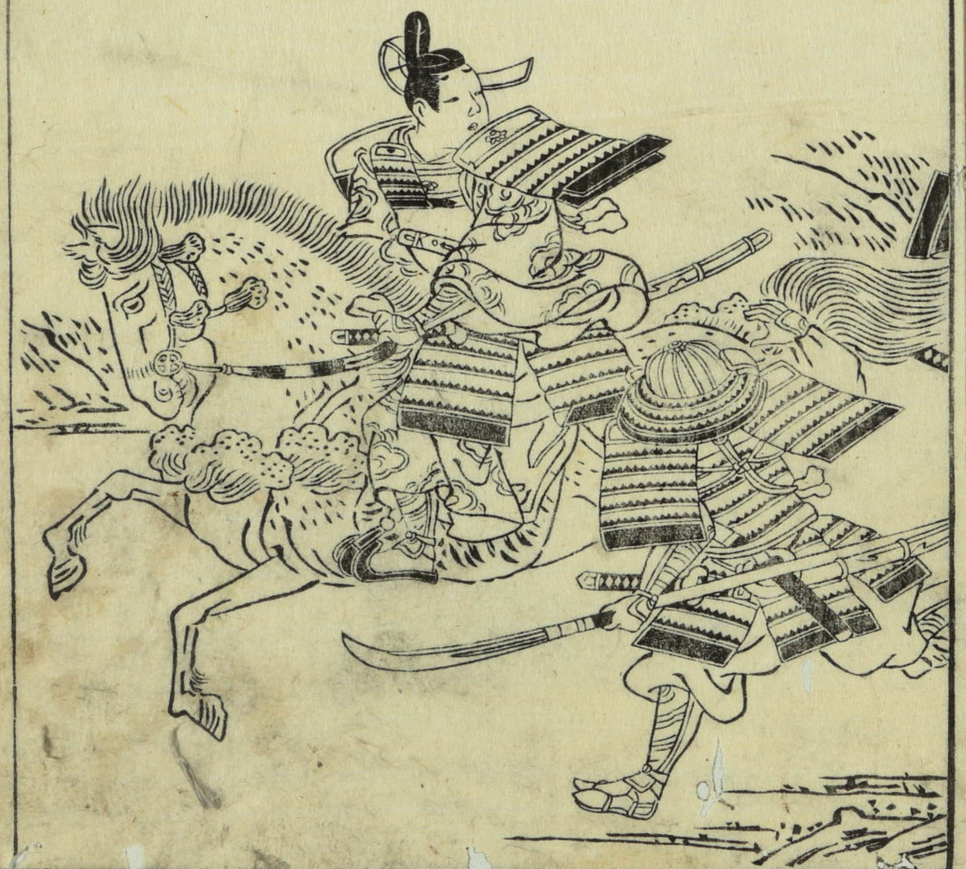
天智天皇の御時ゆゑ方といふ者ありて。朝敵となりて。金鬼風鬼水鬼
隠形鬼といふ四鬼をつかひ。金鬼は身堅固にして矢ぬけず。風鬼は
おこし。隠形鬼は形をかくして敵となひしぐ。水鬼は水をおこしかつて
ひたく。伊賀伊勢の軍兵をかたらひて。対ろくりの数万ちぐ。この勢雄宣者
と称す。彼は四つの。一首の歌を綴りておくる
出も来も我大君の御なまいづくら鬼の住家ありぐ。
笠の意逆のりの。ふつ人。笠取の浦わる君ぬ。
とく。忽ち方に去りとけまべ。ふ方も勢ひ。

天武天皇

四十代天武天皇位を辞して吉野ふのがきのみと姪大友の王ゑがいちんとふくこ。天皇武対んとしゐ。天皇東海道へ落ゆ。ゑ城乃西武ゑのひしゝ。所背ふふがき矢わくる。代西武矢背と名ばくゑ中に入勢るとつゐだ者ゑく休息ゑ一味と。西武くゝ味と名対。そまゝり伊勢国



業名ふやをゝひさ味ゑ所ゑ市乃ゑゑ備軍勢と偽して粟津が京ゑて戦ひ。大友のゑゑ絶ふ打負て。其後天皇位につせゆひ。分民のうまひをあまゝゝをひて。三年の乃課役ゆゝたま。大和の国西市に初式うゝめ。清ゑ京の文ゝゝ。市ゑと大改大臣ゝゝ。改式ゝうおゝゆひをきゆなる。



坂上田村丸
田村丸は前田丸
の子なり。
桓武天皇の御
宇。東國夷退治
のゐ対ひに向ひ
ゐ。官軍利ふく
退く田村丸清澄
清ゐちふ深くわ抜き
せ。ら。ゐ親書軍兵の
鎧の上に移ってゆひて。
弗毫の矢仏放させゆく
い。終ふ夷ども。ら。ふ
ゆく。ゆく。夷ねる軍大納
言ふ。ぜ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
後。大日二日宿死ふ

平城淀城天帝
御位爭ひの時。
義京仲成は平城
天皇の味方。田村丸は
淀城天皇の味方
いまのり。大ふ軍功を
仲成とうちとづむ。
弘仁二年八月九三日
五十四歳にて卒去。
山城國栗栖野ふ
葬る。勅ふりて
紀絵巻を八幡宮
の方に向ひて守護
せしめ。毎年八月
九三日清水をみて
田村丸の忌あり